

地元有力企業 5 社で会社設立

ていこうという渡辺社長の思いがあります。

行政も積極的にバックアップ

メガソーラーの設置には広大な土地面積が必要になりますが、足利市内の学校や公民館の屋根を利用することを計画しており、現在、行政と検討を進めています。

足利市は、平成24年4月1日から中小企業創業支援制度を開始するなどバックアップ体制も充実しています。同市は再生可能エネルギーに対して積極的な支援を継続して行っており、今回の計画も行

政と一体となって進んでいます。

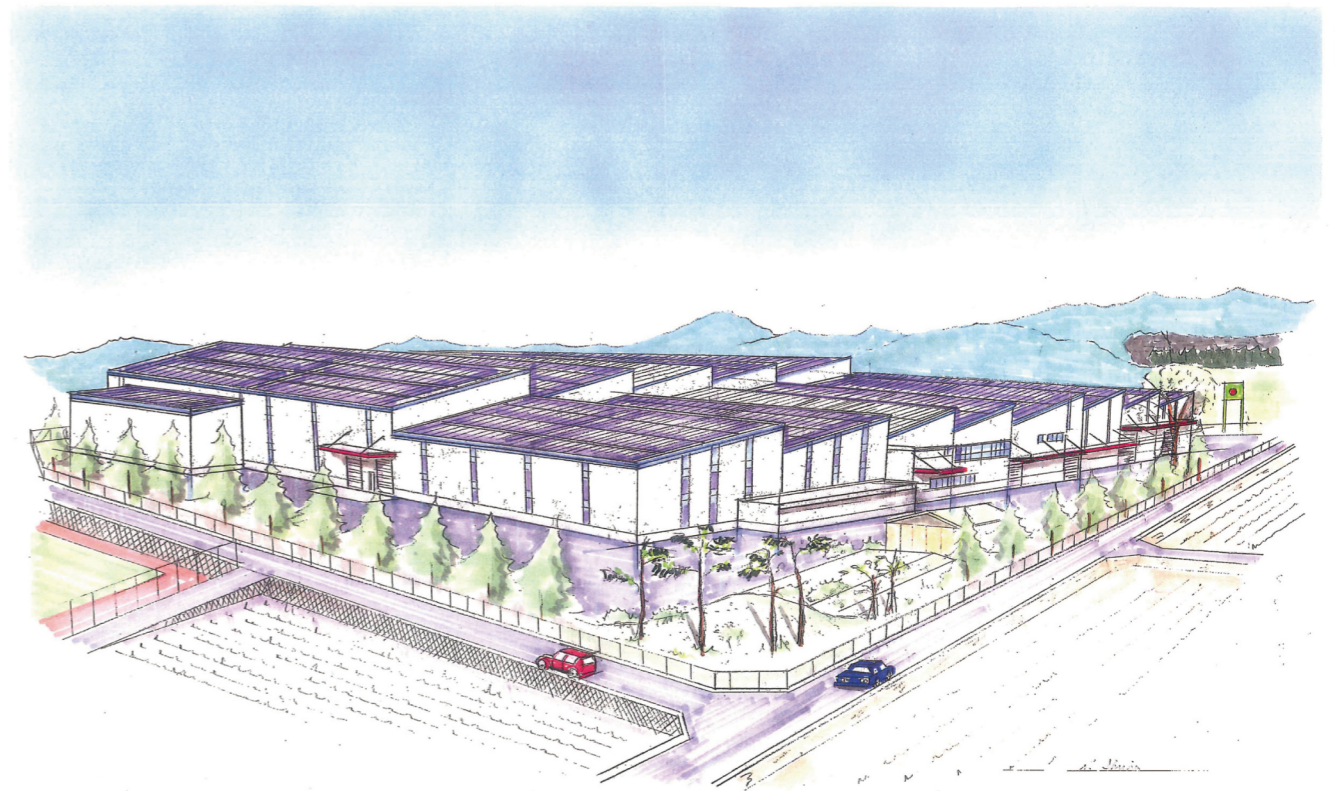
設置場所については、小学校22校、公民館14か所、温泉施設4か所に順次設置し、発電容量は1,800kWが予定されています。

今後の展開に期待がふくらむ

今回の事業は、現在の社会状況や電気工事業界の現状を鑑みて、このままではだめだと考えた渡辺社長が、全員でタイアップして取り組んでいくことを提案してこのビジネスが実現しました。

渡辺社長は、「私はどんな

状況下でも、チャンスと思って行動しています。われわれ、行政、代理店ともども非常にまとまって計画が進行中なので、具体化される時が楽しみです。このビジネスが確立されれば、今後の業界のモデルとなるのではないかと考えています。また、後継者づくりと自分たちの仕事作りについても考えています。この会社を設立し、次代の後継者へ引き継いでいく事が重要だと考えています。その必要性を常に感じています」と、業界・行政・代理店が一体となって、新しい業界の生き方を模索していく方針です。



現在計画中の工場の屋根に取り付けられた1,800kWメガソーラーのイメージ図



株式会社渡辺電設
代表取締役
渡辺 好美様（栃木県）

官民一体で メガソーラー参入

栃木県足利市の株式会社渡辺電設は、同社を含む市内の有力企業5社で共同出資した「足利メガソーラー株式会社」を4月に設立し、メガソーラー発電に乗り出します。発電にあたり、代理店やメーカーも万全の支援を表明。行政も発電事業にバックアップ体制をとるなど、官民一体となった事業に大いに期待が寄せられています。

新分野へ 新たに取り組む

メガソーラーは、1メガワット（1000キロワット）を超える大規模な太陽光発電施設のこと。電力会社などが建設を進めている大規模な商業用太陽光発電施設がメガソー

ラーと呼ばれています。

一般家庭の屋根などに取り付けられている太陽光発電は、3～4kW程度の発電能力ですが、メガソーラーは、これを大規模にして1カ所で1,000kW～20,000kWという発電能力を持ちます。

株式会社渡辺電設の渡辺好美代表取締役は、2010年秋には市内中学11校に、10kWの太陽光発電を足利市電設協会の6社で設置するなどECOに積極的に取り組んでいますが、今回はメガソーラー発電へ取り組むことを決意しました。

同業者・関係団体との 共同プロジェクト

この事業を推進するにあた

り、昨年から関係者で集まり勉強会を開催しています。平成23年5月には長野県の飯田市のNPO法人を訪れ、研究と見学を行ない準備を進めてきました。現在でも、毎週集まって勉強会を開催し、どのようなプロジェクトで進めれば良いかを検討しています。

渡辺社長は、「新分野に積極的に進出し、工事やメンテナンスなど、自分たちの仕事づくりをしていかねばなりません。メガソーラーは大手のもので、電気工事屋はやらないと思われています。しかし、業界のため、後継者育成のため、準備を進めています。違う分野へ積極的に進出するため、5社で共に手を組んで共同設立をすることにしました」と語ります。電気工事業者で、市内の有力企業が共同出資して事業に参入するのは全国的にも珍しいケースです。その根底には、同業他社と協力してともに生き残っ